



NHZ:ノーヒットゾーン(非暴力区域)運動

子ども虐待予防のための、体罰禁止を明確化する最も簡便な解決策

キーワード:ノーヒット・ゾーン、体罰、スパンキング

Stacie Schrieffer LeBlanc, JD, Med, Randell Alexander, MD, PhD, Madison Mastrangelo, Hannah Gilbert

要旨

あなたの病院では、体罰は禁止されているでしょうか？ 大人が大人に暴力を振るうことは許されているでしょうか？

大人が子どもに暴力を振るうことは許されているでしょうか？ 実際に暴力を禁止する病院内ポリシーを明確化していますか？ 病院での暴力は許されるものではないと多くの人が本能的に思っている一方で、誰かが暴力を振るっているのを見かけた際に、それを止めに入ったり、その人をなだめたりすることを、職員に励行するような方針を打ち出し、それを明確に掲示し、実践を行っている病院はほとんどありません。病院のような、子どもへのサービスを展開している組織では、親が子どもを脅したり叩いたりする場面を目にする機会は決して少なくありません(Font et al., 2016)。あなたの病院では喫煙は許可されていますか？ そのことは方針として明示されていますか？ 今や病院などの公共施設で喫煙する人は珍しくなっているのに、それでも継続してそれを掲示しているのは、それが有効だからにほかなりません。

多くの人は、お尻や手などをピシャリと叩く程度の体罰(スパンキング)であれば問題はないと誤解しています。しかし特定の場で携帯電話を使用したり喫煙することは、健康や安全への懸念という観点から、制限がなされています。あらゆる場で喫煙を制限することは、喫煙率の低下の一因となっています。それと同様に、NHZは、子どもを叩くことの害を広く周知することで、親が体罰を使用することを減らし、別のポジティブなしつけ方法を広げていくための契機となるのです。

NHZは、「体罰は子どもをしつけるために許容されるものである」という、長らく認められていた社会通念を変えるという難しい課題を解決する一助になる、シンプルな解決法です。体罰というのは身体的虐待の重要なリスク要因であり、親の意図に関わらず、子どもへの侵害行為である、という結果は様々な大規模研究で示されているにも関わらず、米国では体罰がいまだ合法であり、あらゆる文化圏で広く受容されている状況にあります。

体罰を「お尻や手などをピシャリと強く叩くこと」と定義して、その需要度を調査した研究では、異文化間での差異はほとんどなく、米国に暮らす多くの親たちは、体罰を容認(母親の66%、父親の76%)しており、過去の研究と比べてもほとんど低下していないことが判明しています(Child Trends, 2018)。

NHZは、「殴る蹴るは当然の事、お尻や手などをピシャリと叩くことを含めたあらゆる形態の暴力は、ここでは許されません」と明確化するものです。NHZ運動の目的は、子ども・大人・家族や、病院で働く全ての人にとって快適で安全な環境を作り、強化することにあります。NHZを導入するために活動することは、あらゆる年齢の子どもを暴力から守るための取り組みを広げていくこととなります。NHZを導入する際には、伝えるべき啓発項目を記載した院内ポリシーを掲示することが重要であり、本文の図1にそのサンプルを提示しています。

禁煙区域と同様に、NHZのコンセプトは非常にシンプルなものです。NHZを構成する、各種のエレメントについては、本文の図2に提示しています。

体罰の有害性に対する社会認識を作り、家族との間で話し合いの場を設ける機会を作ることだけでなく、NHZは「組織としての暴力に対する姿勢の綱領」としての意味合いもあるのです。NHZ運動を展開する組織が増えることで、社会通念の変化が期待されます。以前は、喫煙はあらゆる現場で見られていましたが、現在の社会通念は「喫煙は制限すべきもので、まったく望ましくない」というものに変化しています。NHZは、指定区域だけではなく、自宅を含めたあらゆる場所で、尻叩き、平手打ち、殴る、蹴るなどのあらゆる暴力は是認されるものではない、と社会通念を変容させうる可能性を秘めているのです。

*本論文の全訳を希望される方は、事務局までご連絡ください。私的な学習で使用し、コピーを取らない、などを遵守する範囲に限り、送付させていただきます。